

イラク南部サマワで復興支援活動の従事している陸自の撤収が決定した。これから厳しい作戦が予想される。万全の体制を確立して整齊たる撤収を期して欲しいものである。撤収或いは後退作戦は脆弱性を呈しやすく、あらゆる作戦の中で最も困難である。焦って帰国することはない。じっくりと安全を確認しつつ着実な作戦を実施すべきである。それにしても一部マスコミの語彙選択に疑問を感ずる。「撤収」を取るか否かは不明だが「撤退」と態々言い換えているとしか思えない。「撤収」は自らが自らの判断で引き上げることだが、「撤退」と言うと余儀なき理由で、つまり引き上げたくはないのだが敵対勢力の圧力に負けて止むを得ず引き上げるというニュアンスを含んでいる。逃げ帰るというイメージだ。記者の本音が垣間見えたのか？

さて、昨年同様今年も各部隊の記念日に可能な限り参加させて頂いている。5月から6月に掛けては毎週何処かで記念日が開催されている。小生も数週間連続で各部隊の記念日に参加した。今年も既に6個の部隊の記念日に参加した。色々な部隊等の記念日に参加してみると、夫々の部隊にはその部隊なりの伝統や気風もあり、また指揮官の性格も随所に顕れて居ることを感じた。面白いものである。小生が執行者だった時もそういう風に見られていたのだろう。汗顔の至りである。

言うまでもなく、記念日行事そのものの骨格は大同小異である。前日に前夜祭を開催して遠来のお客さんと主要幹部と懇親の場を設けている部隊が多いが必ずしも絶対要件ではない。当日は、記念式典、訓練展示、記念祝賀会食をメインの行事にして、半日程度の広報展示や体験搭乗等を行って来場者に自衛隊の真姿を知って貰うべく懇切丁寧な説明等を行っている。また、夫々の部隊のOB達との懇親の場も設けて旧交を温めているケースもある。

OBと言うのは、色々と経験もし、眼が肥えている分だけ一言多いものである。『批判はこっそりと当該部隊だけに言って欲しいものである。』そういう批判を恐れずに取らせて貰えば次のようになるだろうか。

① タイミング良く・キメ細やかな対応を

記念日に参加すると回答しても「お待ちしております」との反応もなければ、記念日が近づいてきても何ら連絡のない部隊もある。細部どの様に行動すればいいのか不安になっているのにも係わらずである。少なくとも師団長等の連名での案内状を貰っている身である。各部隊によってスタイルが違うとは言え、初めて参加する場合には一体どのようなになっているのだろうか不安なものだ。だからと言って、これしきのことで電話するのも大人気ない等と思う気持ちもある。その様な不安を抱かせないようなタイミングで所要の連絡を貰えると、その部隊は流石に洗練されているなど感じ入るのである。人間の評価などというのはその様な一寸した心遣いに感動するか否かで決まるものである。スマートで心温まる接遇が出来る部隊と言うのは意外に少ないものだ。

② 個性的な演出を

一般的な記念日の構成や要領があるとは言え、そこには執行者の個性や想いが滲み出るものである。あの執行者であれば、左もありなんと言うものが見えるものだ。式辞や観閲行進或いは訓練展示にそれが現れる。祝賀会食の献立や進行にも成程と思わせる演出が見られる場合がある。隊員諸官と自らの連帯を確認し、地域や来場者に対する想いの程が偲ばれる。余りにも奇を衒う演出は幻滅だが、没個性は頂けない。

③ 訓練練度評価の場

観閲式、訓練展示を見ればその部隊がどの程度のレベルにあるかは一目瞭然である。記念日と言うのは、そういう評価の場でもある。その事に思いを致しそれなりの訓練をした部隊とそうでない部隊の差は大きい。部隊の練度は隊員諸官の挙措を見るだけで判別し得る。退官してからは尚のこと色々な部隊を見る機会があり眼も肥えてきたようだ。段々と小言幸兵衛になりつつあるのかもしれない。

④ 地域との連帯感・絆を

部隊の記念日は地域との連帯感を表現する場でもある。記念日に各地域がどの様に関与しているかは興味津々たるものがある。知事はおろか地元市長すらも出席しないような非常に冷淡な自治体があるかと思えば、おらが街の部隊が行進する時には当該部隊が駐屯する首長が立ち上がって部隊にエールを送るその様な地域もある。

⑤ 陸自装備品のハイローミックス！

観閲行進に参加している装備品を見て、未だに前世紀の遺物とは言わぬが、それに近い装備品が堂々で行進していることに驚かされる。一方、陸自の最新装備品が威風堂々で行進してこれなら頼りになるなと思わされることも再三である。余りもの装備品等の更新長径が長過ぎる。用廃したくとも弾薬があるので持ち続けざるを得ないという側面もあり、新装備品の導入長径が長すぎるが故に更新が儘ならぬということもある。

然しながら、隊員諸官は、与えられた装備品を最大限駆使してその性能の最大発揮を図るべく涙ぐましい努力をしている。感謝と敬意を表すると同時に、国家として現状を放置することは無責任の謗りを受けぬか政治家諸氏に問いたい。